

# 2025年3月期 第3四半期決算説明資料

2025年2月5日

株式会社 **ダイセル**

- (1) サマリー
- (2) 2025年3月期 第3四半期業績
- (3) セグメント別 売上高・営業利益 (対 前年同期 増減・要因分析)
- (4) セグメント別 事業概況 (対 前年同期)
- (5) セグメント別 事業概況 (対 予想)
- (6) 連結貸借対照表
- (7) Appendix

**2025年3月期 第3四半期業績：売上高 4,325億円、営業利益 432億円、EBITDA 735億円****対前年同期****増収（+4.4%）、営業減益（△2.8%）、EBITDA増加（+8.4%）**

- 自動車部品関連は、日系自動車メーカーの認証不正問題の影響を受けたものの、前第1四半期に顧客の在庫調整の影響を受けエンジニアリングプラスチックの販売が大きく減少していたことや、電子材料関連市場の需要が回復基調であること、為替影響などにより、売上高は増加。
- エンジニアリングプラスチックを中心とした販売数量の増加や、為替影響などがあったものの、一部顧客の在庫調整によるアセテート・トウの販売数量の減少や一酸化炭素プラントのトラブル影響、減価償却費の増加等により営業利益は減少、EBITDAは増加。

**対予想****売上高、営業利益は想定並みに進捗**

- 日系自動車メーカーの認証不正問題の影響、一部顧客の在庫調整によるアセテート・トウの販売時期の遅れや、一酸化炭素プラントの追加工事があったものの、為替が想定より円安で推移したことなどにより、売上高、営業利益は想定並みに推移。

# 2025年3月期 第3四半期業績



	2024/3 3Q実績	2025/3 3Q実績	対前年同期		通期予想※	進捗率
			増減	増減率		
売上高	4,143	4,325	+183	+4.4%	6,000	72.1%
営業利益	445	432	△12	△2.8%	600	72.1%
経常利益	482	448	△34	△7.0%	600	74.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	442	440	△2	△0.4%	510	86.4%
為替レート USD/JPY	143	153				
<b>EBITDA</b>	<b>678</b>	<b>735</b>	<b>+57</b>	<b>+8.4%</b>		

単位：億円

※ 2025年3月期通期業績予想は2024年11月7日に発表した数値です。

# セグメント別 売上高・営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

	売上高							売上高 通期予想 進捗率※
	2024/3 3Q実績	2025/3 3Q実績	増減	増減率	分析			
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響	
メディカル・ヘルスケア	105	109	+4	+3.7%	△1	+4	+6	72.6%
スマート	251	285	+33	+13.3%	+37	△3	+11	74.9%
セイフティ	727	728	+1	+0.1%	△4	+5	+32	72.8%
マテリアル	1,324	1,292	△32	△2.4%	△92	+60	+65	67.6%
エンジニアリングプラスチック	1,695	1,868	+173	+10.2%	+126	+47	+69	74.7%
その他事業	40	44	+4	+9.6%	+4	-	-	73.6%
合計	4,143	4,325	+183	+4.4%	+70	+113	+183	72.1%

	営業利益							営業利益 通期予想 進捗率※	
	2024/3 3Q実績	2025/3 3Q実績	増減	増減率	分析				
					数量影響	価格影響	その他		営業利益の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	9	4	△5	△59.8%	△2	+2	△5	+2	52.2%
スマート	△3	△6	△3	-	+24	△16	△10	+7	-
セイフティ	24	31	+7	+28.1%	△6	△2	+14	+8	58.7%
マテリアル	291	191	△100	△34.4%	△59	+15	△56	+41	64.8%
エンジニアリングプラスチック	121	206	+84	+69.6%	+52	+21	+11	+14	85.7%
その他事業	2	7	+5	+232.1%	+5	-	-	-	78.3%
合計	445	432	△12	△2.8%	+14	+19	△46	+73	72.1%

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

※ 2025年3月期通期業績予想は2024年11月7日に発表した数値です。

# セグメント事業概況（対前年同期（4月～12月））

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）
メディカル・ヘルスケア	キラル 関連製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>キラル関連製品の需要は、海外を中心に堅調に推移。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キラルカラムは、中国での販売は減少したものの、米国やインドでの販売が増加し、販売数量は増加。</li> <li>前年同期に大型スポット案件があったことでキラルカラム用充填剤の販売は減少。</li> <li>インドでの受託分取サービスが増加。</li> </ul>
	化粧品原料 健康食品素材	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスメは、インバウンドの増加もあり需要は堅調。</li> <li>健康食品は、インバウンドの増加もあり需要は好調。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化粧品原料、健康食品素材ともに、好調なインバウンド需要を捉え、販売は好調に推移。</li> </ul>
スマート	カプロラクトン 誘導体 脂環式エポキシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>カプロラクトン誘導体は、自動車塗料用途の需要が堅調に推移しており、主要市場である中国のウレタン需要も回復傾向。</li> <li>脂環式エポキシは、液晶パネルや電子基板用途など電子材料用途の需要が緩やかに回復。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カプロラクトン誘導体および脂環式エポキシは、需要の回復に伴う拡販により販売数量が増加。</li> </ul>
	フォトレジスト 材料 電子材料向け 溶剤 機能フィルム	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体市場、液晶パネル市場ともに緩やかな回復基調にあり、フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤の需要が増加。</li> <li>機能フィルムは、中国市場における車載ディスプレイ用途の需要が増加する一方で、電池向け離型フィルムの需要は低迷。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォトレジスト材料および電子材料向け溶剤は、需要回復に伴う拡販により販売数量が増加。</li> <li>機能フィルムは、車載ディスプレイ用途の販売数量は増加したものの、電池向け離型フィルムの販売数量が減少。</li> <li>事業ポートフォリオの見直しを行い、2024年12月に有機半導体事業から撤退。</li> </ul>

# セグメント事業概況（対前年同期（4月～12月））

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）
セイフティ	エアバッグ用インフレーター	<ul style="list-style-type: none"> <li>日系自動車メーカーにおいては、認証不正問題の影響や中国市場での不調などにより、自動車生産台数は減少傾向。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車生産台数の減少の影響により、インフレータの販売数量は減少。売上は、為替や原材料費などの価格転嫁を実施し増加。</li> </ul>
マテリアル	酢酸	<ul style="list-style-type: none"> <li>主要誘導品のPTA・VAM用途の需要は引き続き低調に推移。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酢酸の販売数量はVAMやPTAなど主要誘導品の需要低下や、原料の一酸化炭素プラントの初期トラブルの影響により減少。</li> </ul>
	アセテート・トウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界のたばこ生産本数は前年度に引き続き横這い水準。</li> <li>アセテート・トウ需要は堅調に推移。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセテート・トウは、顧客の在庫調整の影響などにより一時的に販売数量は減少。</li> </ul>
	TAC※	<ul style="list-style-type: none"> <li>液晶パネル市場は回復基調ではあるものの、当社顧客の需要は弱含みで推移。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TACは、海外フィルムメーカーへの拡販を進めたものの、TAC市場が低調なことにより販売数量は減少。</li> </ul>
	1,3-BG	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内化粧品市場は回復基調にある一方、海外需要が低調に推移。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,3-BGは海外市場の需要低調の影響により販売数量が減少。</li> </ul>

※ TAC (Tri-acetyl cellulose) : 液晶保護フィルム用酢酸セルロース

# セグメント事業概況（対前年同期（4月～12月））

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）
エンジニアリング プラスチック	POM PBT PPS LCP	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車部品用途は、日系自動車メーカーの認証不正問題や販売不振による中国・ASEAN地域での自動車生産台数減少の影響を受けたものの、顧客の在庫調整の影響で第1四半期に需要が低下した前年同期と比較して需要が増加。</li> <li>主に中国におけるスマートフォンやPC向けの需要が増加し、当社の電子デバイス用途の需要も増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車用途の需要増加に伴いPOM、PBT、PPSの販売数量は増加。さらに、POMは中国での積極的な拡販による産業機器向けやOA向けが増加し、販売数量が増加。</li> <li>POMの中国における新プラントは予定通り2024年11月から稼働開始。</li> <li>LCPも電子デバイス需要の回復に伴う拡販により販売数量が増加。</li> </ul>

# セグメント別 事業概況（対 予想（10月～12月））

## メディカル・ヘルスケア

- ・ ライフサイエンス事業のキラルカラムは、中国拠点での販売数量は減少したものの、米国・インドにおいては増加し、計画を上回った。一方でインドや中国における受託分取案件などが減少し、事業全体では計画並み。
- ・ ヘルスケア事業の化粧品原料は、一部顧客の販売不調があり、販売数量は計画を下回った。健康食品素材は、需要は好調なものの、生産設備の改善のため販売調整を行い、計画を下回った。

## スマート

- ・ カプロラクトン誘導体は、自動車用塗料用途が堅調で、販売数量が計画を上回った。
- ・ 脂環式エポキシは、液晶ディスプレイ用途や電子材料用途の需要回復が想定を上回り、販売数量も計画を上回った。
- ・ フォトレジスト材料は、需要回復により販売数量は計画を上回った。
- ・ 電子材料向け溶剤は、需要は緩やかな回復基調にあるものの、海外顧客向け販売数量が減少し、計画並み。
- ・ 機能フィルムは、主に中国EV向けの需要が増加し車載用ディスプレイ用途の販売数量は計画を上回ったものの、電池用途の離型フィルムの販売数量は計画を下回った。

## セイフティ

- ・ 日系自動車メーカーにおいて、認証不正問題の影響が残っていることや、中国市場が想定より不調であることなどにより、インフレータの販売数量は計画を下回った。
- ・ 米国拠点における生産性改善は計画通り進捗。

## マテリアル

- ・ 酢酸の販売数量は、VAMやPTAなど主要誘導品の需要が低調に推移したことや、一酸化炭素プラント追加工事の影響などにより計画を下回った。酢酸市況はほぼ想定範囲内で推移。
- ・ アセテート・トウは、堅調な需要が継続しているものの、顧客の在庫調整などの影響により販売数量が計画を下回った。
- ・ TACは、液晶パネル市場の回復傾向が落ち着き顧客の在庫調整のため、販売数量は計画を下回った。
- ・ 1,3-BGは、国内化粧品市場が回復基調であったものの、海外需要が低調なことにより、販売数量は計画よりも減少。

## エンジニアリングプラスチック

- ・ POMの販売数量は、自動車向けは計画並みであるもののOA向けなどが増加し、販売数量は計画より微増。PBTは産業機器向け販売数量が減少したことなどにより計画より微減。PPSは、日系自動車向け販売数量の減少などがあり、計画よりも若干の減少。LCPは通信インフラ向けの販売数量が減少し計画より減少。

# 連結貸借対照表

単位：億円		2024年 3月末	2024年 12月末	増減
流動資産		4,095	4,133	+38
	現預金及び有価証券	732	789	+57
	受取手形及び売掛金	1,144	1,118	△ 26
	棚卸資産	1,825	1,860	+35
	その他	394	366	△ 28
固定資産		4,297	4,483	+186
	有形固定資産	3,089	3,349	+259
	無形固定資産	108	108	△ 0
	投資その他資産	1,100	1,026	△ 73
資産合計		8,392	8,616	+224
負債		4,638	4,660	+23
	有利子負債	3,041	3,158	+117
	その他	1,596	1,502	△ 94
純資産		3,754	3,955	+201
負債純資産 合計		8,392	8,616	+224

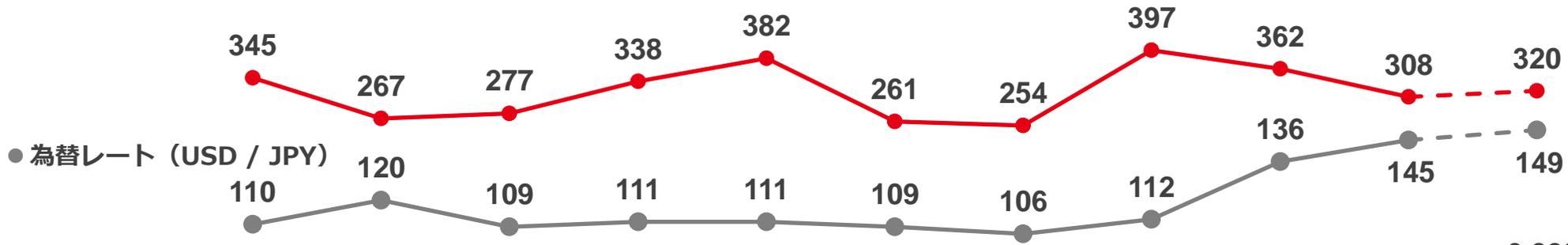
- 総資産増加額224億円のうち、199億円は為替影響。
- 有形固定資産増加の主な要因は、ポリプラスチックグループのPOM・LCP・COC製造能力増強投資。
- 投資その他資産は、主に投資有価証券の売却により減少。

# Appendix

---

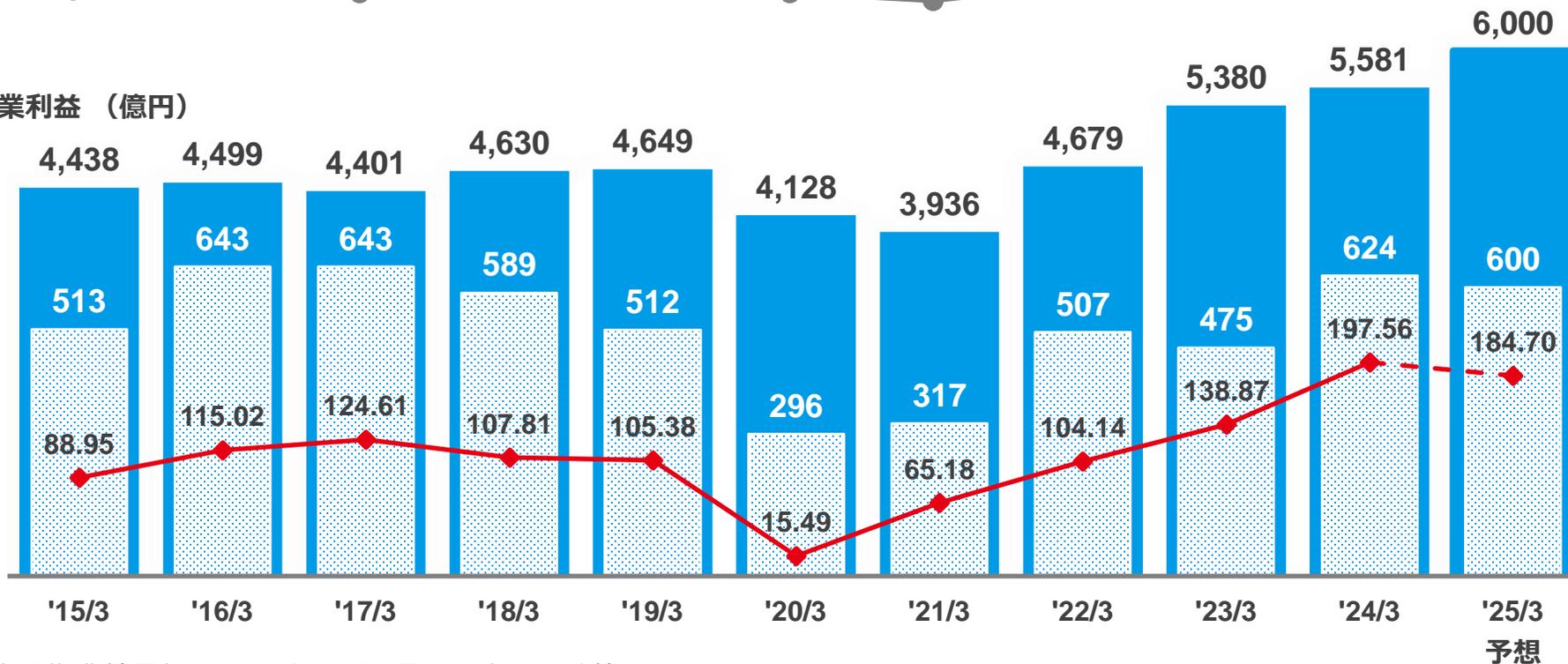
# 売上高・営業利益・EPSの推移

●メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)



■売上高・□営業利益 (億円)

◆EPS (円)



※ 2025年3月期通期業績予想は2024年11月7日に発表した数値です。

## 2025年3月期より「総還元性向40%以上」に加え「DOE4%以上」を指標に追加し、実質的な資金創出力向上を背景に株主還元を強化

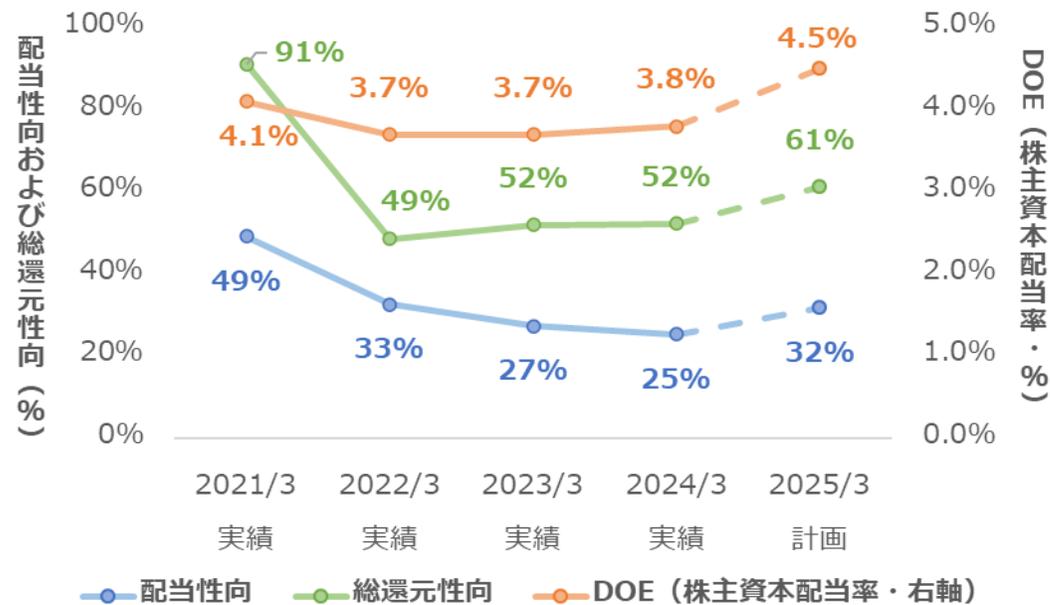
2025年3月期 (計画は2024年11月発表から変更ありません)

- ・年間配当計画 **60円/株** (前期比**10円**増配)  
 中間配当 **30円/株** (前期比 **5円**増配)、期末配当計画 **30円/株** (前期比 **5円**増配)
- ・上限**150億円** (1,200万株) の**自己株式取得中** (取得期間：2024年11月～2025年3月)

株主還元額推移



株主還元指標推移



# セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円

	売上高						
	2024/3				2025/3		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
メディカル・ヘルスケア	34	35	36	34	35	37	37
スマート	84	84	83	87	103	93	89
セイフティ	224	247	256	229	233	238	257
マテリアル	452	439	433	499	445	440	407
エンジニアリングプラスチック	503	584	608	573	627	618	623
その他事業	12	13	15	16	13	16	16
合計	1,308	1,402	1,433	1,438	1,456	1,441	1,429

単位：億円

	営業利益						
	2024/3				2025/3		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
メディカル・ヘルスケア	3	2	4	△1	1	1	2
スマート	1	0	△4	△6	5	△3	△8
セイフティ	△7	5	25	6	△0	14	17
マテリアル	86	112	93	116	91	53	48
エンジニアリングプラスチック	7	54	60	62	77	75	54
その他事業	△0	2	1	2	1	2	4
合計	91	175	179	179	175	141	116

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

# セグメント別 営業利益 (対 前年同期 増減・要因分析)

単位：億円		営業利益	
		分析	増減
メディカル・ヘルスケア	数量影響	△2	キラル関連製品の販売数量が減少
	価格影響	+2	販売製品構成差
	その他	△5	販売数量増加に伴う経費増加
スマート	数量影響	+24	電子材料関連市場の需要回復に伴う過酢酸誘導体製品やフォトレジスト関連の販売数量増加
	価格影響	△16	販売価格是正に努めるも原料価格が上昇
	その他	△10	販売数量増加に伴う経費の増加や在庫処分費用
セイフティ	数量影響	△6	インフレータの販売数量が減少
	価格影響	△2	販売製品構成差
	その他	+14	北米の生産拠点の統合に伴う固定費等の減少
マテリアル	数量影響	△59	出荷時期ズレに伴うアセテート・トウの販売数量減少や、一酸化炭素プラントのトラブル影響
	価格影響	+15	酢酸市況の下落（△）や為替影響（+）
	その他	△56	一酸化炭素プラント稼働による償却費の増加（△）や在庫影響（+）
エンジニアリングプラスチック	数量影響	+52	拡販による販売数量の増加
	価格影響	+21	販売価格の是正と為替影響
	その他	+11	今期の定期修繕が小規模であったことによる経費減少

# 2025年3月期業績予想

		2024/3 実績※ <sup>1</sup>			2025/3 予想※ <sup>2</sup>			増減
		上期実績	下期実績	年間	上期実績	下期予想	年間	
単位：億円								
	メディカル・ヘルスケア	69	70	139	72	78	150	+11
	スマート	168	170	338	196	184	380	+42
	セイフティ	471	484	956	471	529	1,000	+44
	マテリアル	890	932	1,822	885	1,025	1,910	+88
	エンジニアリングプラスチック	1,087	1,181	2,268	1,245	1,255	2,500	+232
	その他事業	25	32	57	28	32	60	+3
売上高		2,710	2,871	5,581	2,897	3,103	6,000	+419
	メディカル・ヘルスケア	5	3	8	2	5	7	△1
	スマート	1	△10	△9	2	△5	△3	+6
	セイフティ	△1	31	30	13	39	52	+22
	マテリアル	199	209	408	143	152	295	△113
	エンジニアリングプラスチック	61	122	183	152	88	240	+57
	その他事業	1	3	4	3	6	9	+5
営業利益		266	358	624	316	284	600	△24
経常利益		307	377	684	307	293	600	△84
親会社株主に帰属する当期純利益		298	261	558	321	190	510	△48
(参考) 為替レート USD/JPY		141	148	145	153	145	149	

※1 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映  
TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

※2 2025年3月期通期業績予想は、2024年11月7日に発表した数字です。

# 為替レート・主要原燃料価格動向

		2024/3 実績		2025/3 実績・計画		
		上期	下期	上期 (実績)	下期 (計画)	3Q (10-12) 実績
為替レート (USD/JPY)		141	148	153	145	152
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	295	322	332	320	327
	原油 ドバイ (USD/bbl)	82	82	82	85	74
	国産ナフサ (円/kl)	65,550	72,800	77,950	72,000	73,200

# マテリアルセグメント、スマートセグメントの組織再編

スマートセグメントにおけるM&A後のシナジー促進、人財育成などをより迅速かつ効果的に推進するため、組織再編を2024年4月1日付で実施。また、同日付で、既存事業同士のシナジー効果最大化を目的に、マテリアルセグメントの脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体をスマートセグメントへ、光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）をマテリアルセグメントへ移管するとともにマテリアルセグメントの組織再編を実施

セグメント	サブセグメント	製品
スマート	ディスプレイ/オプト	液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）、機能フィルム、オプティカルレンズ
	IC/半導体	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、有機半導体デバイス
マテリアル	アセチル	酢酸、酢酸誘導体（酢酸エチル、無水酢酸など）、酢酸セルロース、アセテート・トウ、ケテン誘導体、エチルアミン
	ケミカル	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、1,3-BG



セグメント	サブセグメント	製品
スマート	ファンクショナルプロダクツ	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、オプティカルレンズ
	アドバンスドテクノロジー	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、有機半導体デバイス、機能フィルム、
マテリアル	アセチル	酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ
	ケミカル	液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）、酢酸セルロース、1,3-BG、酢酸エチルなど有機溶剤、ケテン誘導体、エチルアミン

# 外部評価 ESGインデックス

ダイセルグループでは循環型社会の実現に向け、お客様やパートナーと共に、持続可能な社会づくりに取り組んでいます。

ダイセルは、世界最大級の年金基金である年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が採用している、国内株式を対象とする6つのESG指数すべての構成銘柄に選定されております。（2025年1月末時点）

- ◆ MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
- ◆ MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)
- ◆ S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- ◆ FTSE Blossom Japan Index
- ◆ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- ◆ Morningstar 日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）

2024 CONSTITUENT MSCI日本株  
ESGセレクト・リーダーズ指数



FTSE Blossom  
Japan Index

2024 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

この他にも、FTSE4Good Index SeriesやSOMPOサステナビリティ・インデックスの継続選定、2024年5月から新たに iSTOXX® MUTB Japan プラチナキャリア 150 インデックスにも採用されております。

※各インデックス情報の詳細等は、ダイセルのWEBサイト[参画するイニシアティブ・外部からの評価 | サステナビリティ | 株式会社ダイセル \(daicel.com\)](https://www.daicel.com) をご参照ください。

- **本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。**
  
- **ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。**
  - ・ **本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。**
  - ・ **いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。**